

令和元年度第1回 千葉市史跡保存整備委員会 議事録

1 日 時 令和元年6月9日（日） 午後1時30分～午後2時30分

2 場 所 千葉市教育委員会 第一会議室

3 出席者 【委員】

青木委員（委員長）、設楽委員（副委員長）、赤坂委員、高橋委員
谷口委員

【オブザーバー】

千葉県教育委員会文化財課 吉野主任上席文化財主事

【事務局】

（文化財課）滝田課長、森本主査、須賀主任主事
（加曽利貝塚博物館）加納館長
（埋蔵文化財調査センター）西野所長

4 議 題

- (1) 委員長・副委員長の選任について
- (2) 加曽利貝塚調査研究部会委員の選任について
- (3) 特別史跡加曽利貝塚ランドデザインに基づく整備について

※報告事項 令和元年度発掘調査について

5 議事の概要

- (1) 委員長・副委員長の選任について
委員の互選により、青木委員が委員長に設楽委員が副委員長にそれぞれ選任された。
- (2) 加曽利貝塚調査研究部会委員の選任について
事務局案が承認され、設楽委員・高橋委員・谷口委員が選任された。
- (3) 特別史跡加曽利貝塚ランドデザインに基づく整備について
以前から検討事項となっている調査研究体制について具体的に検討し、博物館の具体的な姿を次回の委員会に案を見せること。調査研究体制については加曽利貝塚調査研究部会だけでなく、本委員会でオーソライズを図る必要がある。

6 会議経過

【開会】

(事務局職員)

ただいまより、令和元年度第1回千葉市史跡保存整備委員会を開催いたします。この委員会は、千葉市情報公開条例に基づき、公開とします。議事録は、事務局が作成した案を出席委員にご確認いただき、委員長の承認により確定いたします。

傍聴人の方はお配りした傍聴要領をご確認の上、お守りいただきますよう、お願い申し上げます。

本日はオブザーバーとして千葉県教育委員会文化財課より吉野主任上席文化財主事にご参加いただいております。

本日の会議につきましては、委員半数以上のご出席をいただいておりますので、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第5条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

今年度最初の会議になりますので、初めに事務局職員を紹介いたします。
文化財課長 滝田でございます。

(滝田課長)

滝田でございます。よろしくお願いいたします。

(司会)

加曽利貝塚博物館館長 加納でございます。

(加納館長)

加納でございます。よろしくお願いいたします。

(司会)

最後に、埋蔵文化財調査センター所長 西野でございます。

(西野所長)

西野でございます。よろしくお願いいたします。

(司会)

ここで、委員の皆様をご紹介いたします。委嘱状は、恐れながら机上配付とさせていただきます。大変恐縮ですが、お名前を呼ばれた方は、その場でご起立いただき、一言ご挨拶を頂戴したいと存じますので、よろしくお願いいたします。

東京藝術大学客員教授 青木繁夫委員。

(青木委員)

青木でございます。加曽利貝塚のグランドデザインが策定され、次のステージに入るかと思えます。地域社会に加曽利貝塚が賢明な利活用ができるように、微力ながらご協力させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

(司会)

千葉大学名誉教授 赤坂信委員。

(赤坂委員)

赤坂です。よろしくお願いいたします。

(司会)

東京大学教授 設樂博己委員

(設樂委員)

設樂でございます。先々年度はサバチカルに入っておりました。所属する大学で、サバチカル期間中は委員等を受けられない決まりで、身を引かせていただいております。今年度より委員になりますので、よろしくお願いいたします。

(司会)

早稲田大学教授 高橋龍三郎委員

(高橋委員)

私も昨年度サバチカルで会議に出席できないこともあったのですが、また改めて今年からお世話になります。よろしくお願いいたします。

(司会)

國學院大學教授 谷口康浩委員

(谷口委員)

高橋先生と設樂先生がいらっしゃらない間、少し心細かったのですが、戻ってこられてほっとしています。よろしくお願いいたします。

(司会)

委員の皆様、ありがとうございました。引き続き2年間よろしくお願いいたします。今期より、設樂委員に就任いただきます。なお、本日、千葉市中心市街地まちづくり協議会会長の竹内委員と、放送大学客員教授の中村委員につきましては、諸事情によりご欠席の連絡を受けております。

なお、本日の会議につきましては、委員半数以上のご出席をいただいておりますので、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第5条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、次第に従いまして、これより議題に入ります。初めに、当委員会の委員長と副委員長の選任を議題といたします。

なお、委員長が決まるまでの間、文化財課長の滝田が進行を務めさせていただきます。それでは滝田課長、よろしくお願いいたします。

(滝田課長)

委員長が決まるまでの間、議事の進行を務めさせていただきます。それでは委員長の選任でございますが、本委員会の設置条例第4条第2項の規定に基づきまして、委員長及び副委員長は委員の互選により定めるとされています。

これにつきまして、どのように取り計らったらよろしいでしょうか。ご意見伺います。

(高橋委員)

青木先生が一番このような経験を積まれている先生だと思いますし、お忙しいことだと重々存じていますが、委員長に推薦申し上げたいと思います。

(滝田課長)

ありがとうございます。ただ今の高橋委員のご推薦につきまして、ご異議ないでしょうか。

(各委員)

異議無し。

(滝田課長)

それではご異議ないようですので、青木委員に委員長をお願いしたいと存じます。それでは青木委員、委員長席をお願いします。それでは委員長就任にあたり、一言ご挨拶をお願いします。

(青木委員長)

それでは委員長のお役目を務めさせていただきます。岡本先生のようにはいかないと思いますが、ぜひよろしく願いいたします。

(滝田課長)

それではここからの議事進行は青木委員長をお願いします。

(青木委員長)

それではまず、副委員長を選ばないといけないわけですね。こちらも委員の互選ということで、どなたかご推薦あるいはご意見ございましたらお願いします。

特に無いということでしたら、私からのご提案でよろしいでしょうか。そうしましたら設楽先生にお願いできればありがたいのですが

(委員一同)

異議なし。

(青木委員長)

それではどうぞよろしくをお願いします。一言、ご挨拶をお願いします。

(設楽副委員長)

副委員長を仰せつかりました。新委員長のサポートをして、足を引っ張らないようにしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(青木委員長)

設楽先生、ありがとうございました。それでは引き続き議題に移りたいと思います。議題2、調査研究部会の委員の選任を事務局から説明をお願いします。

議題 (2) 調査研究部会の選任について

(青木委員長)

事務局より、ご説明をお願いします。

〔事務局説明：資料により、説明。〕

(青木委員長)

委員の皆様ご意見ありますか。部会の委員を設楽先生と高橋先生と谷口先生にお願いするということで、よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(青木委員長)

それでは設楽先生、高橋先生、谷口先生、よろしく申し上げます。引き続きまして議題の3に移ります。

議題 3 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備について

(青木委員長)

それでは事務局より、ご説明申し上げます。

〔事務局説明：資料により、説明。〕

(青木委員長)

本日の議題の(3)の説明は以上です。何かご意見ご質問ございますか。

(赤坂委員)

資料の最初に短期的史跡整備とありますが、都市局の協力を受けてというのは、庁内での調整が必要とはよく言われるところなのですが、どうですか。

(森本主査)

都市局とは公園緑地部と施設整備に関して建築部と協議しています。そのほか、建設局の道路部とも協議を行っています。

(赤坂委員)

これまで都市局との調整というのは、実績としてもあるのでしょうか。うまくやってきたというところはありますか。

(森本主査)

加曽利貝塚については、昭和63年度から平成5年度にかけて実施した南貝塚での史跡整備が実績としてあります。

(谷口委員)

初回ですので基本的なことを確認します。加曽利貝塚博物館と新ガイダンス施設の関係ですが、これは建物としては同じで、博物館機能は博物館機能とガイダンス施設を分けてあるということでよろしいでしょうか。

(森本主査)

これは今年度の予算執行に関係あるのですが、国庫補助事業として文化庁の補助金を活用し基本計画を策定します。史跡のガイダンス施設整備を対象とした補助金になりますので、まず加曽利貝塚の玄関口として、史跡を紹介するための最低限の整備を検討した上で、さらに今までの博物館が持っていた機能をどこまで乗せるべきか、更に埋蔵文化財調査センターや郷土博物館との連携をどこまですべきかを検討していきたいと思います。

(谷口委員)

予算の出どころが違って、予算上区別が必要だということはあると思いますが、実際に展示を考えていく中で、博物館機能とガイダンス機能をはっきりと二分してわかるのは難しいと思います。この資料だとよくわかりません。プロポーザル方式で発注されるということですが、博物館機能に踏み込んだ提案を今後求めていくのか、どうなのでしょう。

(森本主査)

どのような展示をするかということも、今回の発注で提案を募集します。きちんと博物館的な展示や調査研究を含めて検討し、基本計画でまとめていきたいと思います。

(谷口委員)

博物館構想みたいなものを、市の中でそれとは別に策定していくという方針ではなくてですか。一体として展示業者さんに提案を求めていくということでしょうか。

(滝田課長)

今回は縄文文化研究に特化した博物館機能・収蔵機能・展示ガイダンス機能すべてを含めて、諸室の構成をどうしていくのがいいのかを基本計画で策定していきたい。より効果的に国費を活用するためにも、ガイダンス施設という表現に努めているのは事実です。

(谷口委員)

資料2裏面の2(1)、3つめの項目に縄文貝塚文化研究に必要な機能とありますが、4つ目のどういう展示をしていくのかとは、次元が違うような気がします。そこまでを含めて外部の事業者へ委託してよいのかということはどうなのでしょう。

(森本主査)

縄文貝塚文化研究に必要な機能・体制については、事務局で素案を示し、調査研究部会できちんと議論していきたいと思います。

(青木委員長)

今までの貝塚文化の研究については、この委員会の中でも随分議論して、基本計画的なこととはほぼできていますよね。ですからこれで具体的に計画を作るので、今年の議論では、それをどう具体的に落とし込んでいくかというのがとても大きいと思います。その時にプロポーザルで博物館だけ切り分けて発注するのかということとはよくわからないことなので。

教育委員会側でよく検討すると思います。それについては、私たちは意見を述べて実現方法を探るという方法でいかがでしょうか。今、谷口先生がおっしゃったことについては、私たち委員の強い要望ですので、なるべくそこを理解していただきたい。ただ、博物館という施設ができなくては、結局研究場所もできないわけです。遺跡と一体でなければなりません。

ので切り離して考えられず、博物館を作るときに我々側もアイデアを出すということは必要だろうと思います。今までは理念的に私たちも盛んに言いましたけど、今度は具体的に私たちが提言していかななくてはいけないだろうと。そういうところですね。

(滝田課長)

この研究機能というのが、我々内部職員の研究スペースというのがありますし、外部の研究者をお招きするためのスペースという意味もあります。それと博物館としての展示というのはすぐに組み合わせというのは難しいと思いますが、両立できる方向で受託事業者と話し合いの上、素案を作って本委員会で議論していきたいと思います。

(青木委員長)

突き詰めると、定員の話まで行くと思います。組織については市で話し合う部分になると思いますが、こういう体制が欲しいということは、私たちは提案できると思いますので、なるべくこの計画を作る時にでそういう提案ができる方向性をとります。結局、基本計画に入っていないと、どういう方向になるかわかりません。それはきちんと基本計画の中で位置づけていただくということをお願いします。

(高橋委員)

今後詰めていくところもたくさんあると思いますが、昨年サバチカルで不在だったので確認です。今ある博物館は機能を停止して、新しいものが坂月川の対岸にできるというのは間違いないと思うのですが、今ある既存の施設はどうするか決まっていなかったわけ。

(森本主査)

既存の施設の撤去は決まっていますが、新しい施設にどこまで機能を移すかということはこのからの議論です。

(高橋委員)

場合によってはガイドンス施設の一部にあてる可能性はありますよね。そうすると既存の施設を全て撤去するという考え方は担保されているということですよ。

(赤坂委員)

私もその点気になっていて、どういう順番なのか。新博物館もまだできていませんし、対岸にできる施設の検討はこれからと思っています。

(設楽副委員長)

私も博物館と新ガイドンス施設の関係がいまいちわかっていませんでした。新ガイドンス施設を先行して進めていこうということだと思うのですが、本来一体的なものですよね。したがって、新博物館がかなり具体化していないと、本来新ガイドンス施設の話も進まないと思います。ただ、そのスケジュールということでやっていくと、9月の中間報告ですね。

それまでに博物館もかなり具体的な部分を詰めていく必要があると思います。資料2の「2 主な検討・審議事項」に示されている2番目から5番目位を詰める必要がある。そうすると、例えば以前から議論して、重要な検討課題であると言いながら具体的に話が進んでいない研究組織と体制のベストな在り方、埋文センターとの関係性、人員に関しては本委員会

では言えませんが、教育委員会でどういったお考えをお持ちなのか、そうした諸々のことがやはりかなり前提になってくると思います。そうじゃないと新しいガイダンス施設をそれと切り離してやっていくと、どんなものができるのかイメージすら湧かない。そうなってくるとこの基本計画を出すまでにかなり煮詰めておく必要があると思うと、9月に委員会を設定するのがいいのか。その間に部会を開く必要があると思います。それから資料2の2

(1) 調査で大仕事をいくつも挙げておられる。これを詰めていくのは容易じゃないと思いますが。

(青木委員長)

今、整備の問題とガイダンス施設の在り方と、縄文文化研究の在り方についてこのスケジュールでは厳しいのではないかというお話が出ていますが、どうでしょうか事務局としての考えをお願いします。

(滝田課長)

当面の目標としては、9月の中間報告を目標に別途お願いしようと思っています。部会で、やはり基本となるのは加曽利貝塚の発掘の中長期的にどういう計画を作っていくか。これをまず煮詰めて、それに必要な人員予算組織になってくると思いますので、前回3月の会議から進展しておらず申し訳ありませんが、9月までの中間報告までに部会の方でまず実際に加曽利貝塚で現場を見てもらいつつ、この辺の今後の中長期的な体制をご議論いただいて、本委員会で報告したいと考えています。

(青木委員長)

事務局提案の検討審議スケジュールだけでなく、部会を開いて議論をしたいということです。9月前に議論をして、ご理解いただくと。資料2の2(1)に反映することを後で委員会に報告していただくという提案ですが、それでよろしいでしょうか。部会を開いて、詳細を具体的に詰めていくということです。

(高橋委員)

発掘調査を進めていくのは、現場の状況を見ながら今後どうするかという主眼があると思うのですが、ここで空いているのはもっと大きい、長期のスタンスで考えていかなければいけないのでズレが出てくるのを恐れているのです。むしろ日々対応されているでしょうから、それを委員会で共有できるのが可能であればいいかなと。我々から事前に意見を申し上げられるような仕組みがあれば我々としてはやりやすいなど。折角3回スケジュールを組まれているので、その時に色々揉めるのではなくて、ある程度我々の意見を集約できて、事務局で出せるような状況ができればと思います。

(谷口委員)

今高橋先生がおっしゃったように、計画を練っていく過程で、色々な意見を集約できる仕組みがあればと思います。調査研究部会で博物館構想みたいなものを話し合っていくのはあまりふさわしくないのでは。元々今の発掘調査を議論する部会だと思いますので、それとはちょっと違うのではないかと思います。

(赤坂委員)

私は考古専門ではありませんが、調査研究はカチカチとできるわけではなく、常に新発見があつて調査結果が出て・・・というものですから、加曽利貝塚も縄文文化や貝塚文化の真実に向かつて進んでいく常に進行形じゃないかと思います。そういう事実関係のインタープリテーションというのが専門部会の役割だとすると、現代に生きる人たちにそれをどう伝えていくか。アプリケーションの文化の解釈がどうかというのをそれも非常に大事だけど、うまい具合に一致するわけではないと思います。同時にやっつけていかなければならないことは大いにありますので、色々な成果が発見されて発表されるというのは市民に非常に関心が高いことだと思いますので、その辺の調整がこれも一つ博物館機能の大事な点だと思います。結果がぱつとできるわけでは決してないし、常に現在進行形で進んでいく。それを公開して市民に知らせていく。その辺りの磨きをかけていくということじゃないかと聞いておりました。

(青木委員長)

今の意見を要約すると、部会に全部担わせるのはきついだらうと。部会で議論していただいて、それぞれの委員にもこまめに連絡していただいて方向性を作っていく。それをどこかでオーソライズしなければいけませんので、それは当然この委員会だと思いますし、市民についての発信については、一応この委員会でオーソライズした後になると思いますので、やはりこの委員会で十分吟味していただいてということでもよろしいですか。もう一つ、短期的史跡整備のところ、これは来年度に向けて工事の予算取りしていくと思いますけど、かなり広いエリアですし、木もたくさんありますので、来た人の安全と安心を確保するような、最近のようにひどいアクシデントがあつた時に対応できるような、それをご検討いただけませんか。監視カメラの設置も当然だと思いますし、他の遺跡で木がたくさん生えていることによって、いろいろな問題が出ているのを私達は他でよく聞きます。ある意味緊急的な課題だと思いますので。

(滝田課長)

かしこまりました。

(吉野)

確認ですが、短期的整備は3年でしたっけ。

(滝田課長)

来年度中です。

(吉野)

そうするとかなりタイトなスケジュールですね。それと長期的整備のスケジュールも同時並行なので作業量がかなり多いと思います。そういったことですので、先生方もご了解いただければと思います。

(設楽副委員長)

次回が9月で第2回となっていますが、先ほども申し上げた通り、基本計画の中間報告を

出すために、色々やらなければいけないことがあると。谷口先生のご意見もあったとおりでこかで9月前にやらないといけない。可能であれば11月とかに遅らせられますか。

(滝田課長)

これは実際に基本計画の進捗にあわせて相談させていただきたいと思います。9月は次年度予算要求のこともあるので、方向性だけでも決めていきたいと考えておりました。ただ、この委員会を開催に固定されませんので、ご意見を伺いながら予算要求をしつつ、中間報告を見ていきたいと考えております。

(青木委員長)

予算は大切だと思いますので、予算要求をするにも委員会の中でオーソライズしなくては財政も議会も納得できないと思いますので、予算を見据えて9月に委員会を設定して、ある程度の大まかな方向性を定めていただいて、場合によってはもう一回開催することもご検討いただければと思います。そういうことでよろしいですか。

(各委員)

異議なし。

(青木委員長)

これ以上ご意見ないようでしたら、資料2の報告について終了します。発掘調査について西野所長からお願いします。

報告事項 令和元年度発掘調査について

(青木委員長)

それでは事務局より、ご説明をお願いします。

〔事務局説明：資料3により、説明。〕

(青木委員長)

ご質問ございますか。それでは、無いようですのでこれで進行を事務局にお返しいたします。

(事務局職員)

委員の皆様、長時間、ご審議いただきありがとうございました。

それでは以上を持ちまして、令和元年度第1回千葉市史跡保存委員会を閉会いたします。

——了——